

Withコロナと防災活動

前回からの続き!『鬼滅の刃』は、2016年2月から連載が開始され2020年5月までコミック本23巻、人気上昇と共に2019年にTVアニメ化、2020年10月に映画化し大ヒット、世界中に社会現象を引き起こすまでになっています。対極にある『ONE PIECE』(ワンピース)は、1997年7月から連載が開始され、23年を越えて連載中で、その間にTVアニメ化や映画化も数多く制作され、コミックとは違うストーリーで多くのファンを魅了しています。

このふたつを比較することで、継続力があり、より多くの人々が防災に興味を持ち、防災活動を担い『備える』気持ちに心が向く近道にならないかと研究しています。前回お伝えした『ステージクリア方式と逆算方式』どちらも、それぞれの良さがあります。そこで片方において片方に無いものを見つけ出すことで、広がりが増え加速しないといわれる防災活動に、何か役立つ妙案を発見できるのではないかと考えます。



『鬼滅の刃』は、主人公の炭治郎が家族への強い想いを掲げ、他の人の為に行動をするといった形で、多くの人の心を動かした『共感型』だと考えると、『ONE PIECE』は、主人公のルフィーが将来の構想や展望、また将来を見通す力を得たいと考え「海賊王に俺はなる!」と宣言し、戦いの度に仲間を増やし、仲間と共に夢を語りながら有言実行で夢を叶えていく『ビジョン型』だと考えられます。

『鬼滅の刃』の炭治郎は、家族を鬼に惨殺され、生き残った唯一の妹は傷口に鬼の血を浴びたことで妹も鬼になってしまう。しかし、炭治郎の目的は「鬼への復讐」よりも、妹を人間に戻すことに目的があります。過ぎたことを悔やむよりも、前を向く勇気に多く人は賞賛したのではないのでしょうか。鬼と戦っていく中でも、ひたすら人を救うことを『人として行うべき正しい道』と考える炭治郎は、自分のことよりも他人の幸福を願うことを考える利他的なことから『共感型』だと考えられます。

『ONE PIECE』は、対極にあるとは考えられますが、自分の利益だけを追求しようとする身勝手な利己的ではありません。自分の目標に突き進む中で、人の心を感じ、人と共に笑い泣き喜び。決して「海賊王におれはなる!」という個人の目標を達成するためだけに自分が中心となって動いているわけでもないのです。ところが読み手によっては、主人公ルフィーの表面的な

言葉「海賊王におれはなる!」だけを読み、ルフィーの心に秘めた思いを感じ取れない方も多く、読み手の心の在り方によっては物語の見え方がまったく違ってくるという複雑かつ高度な物語となり、ファンの多様化の要因となっています。仲間を創り増やすために「海賊王におれはなる!」というビジョンに賛同してくれる人の心を引き付けることができれば上手いのですが、ひとつ間違えると「あなたが勝手にやれば」といわれてしまう「自己満足で利己的なビジョン型」と勘違いされてしまうことも考えられます。追記しておくと『ONE PIECE』は「自己満足で利己的なビジョン型」では決してないことをここに記しておきます。



コロナ禍という先の見えない時代、公儀(正義)でさえゴールを動かさざるを得ないことで、市民からは「不安と不満が噴き出す」という時節から鑑みると、「共感型」と「ビジョン型」のふたつからの選択は、ゴールを目指し、仲間と一歩ずつ進む共感型の『鬼滅の刃』の方が、より多くの支持を得ることができたのだらうと考えられます。でも、ふたつの大切な共通点は『仲間が!友が!増える』ということです。



前回、我々の活動を『鬼滅の刃』タイプの『逆算方式の防災組織』で、そこから生まれる『共感型』でもありますが、10年後20年後のまちづくりという長期構想からのまちづくりを考える『ビジョン型』でもあるという両方を持ち合わせていることにも気付きました。更には、様々な伏線となる事案も日常の暮らしの中でクリアしていく「ステージクリア方式」も持ち合わせていること、災害対応への想定から「予防保全」の意識も備わるまちになっています。そこには、まちに住む人が「自分にできることを、やれる範囲で活動できる、人に優しいまち」が育まれていると考えられます。

さて、『共感』プラス『ビジョン』という、このふたつを共に持ち合わせる自主防災組織が理想形であらうと考えられます。『逆算方式』は『共感型』を生み出し、『ステージクリア方式』は『ビジョン型』を生み出す。この両方が備わるまちになれば、継続できる防災活動を担うことができ、災害にも強いまち、住みやすく住み続けたいまちづくりとなるのだらうと考えられます。その担い手の一人として、「あなたができることを、あなたができる時間で、あなたができる範囲で一緒に創り上げませんか?」 次号に続く